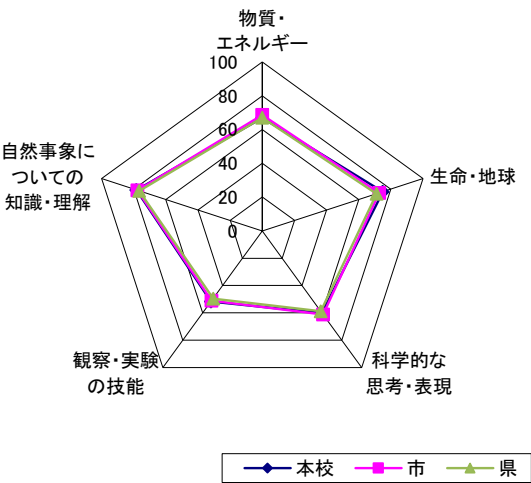


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.9	68.6	67.0
	生命・地球	75.0	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	60.1	61.2	58.8
	観察・実験の技能	51.7	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	78.3	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均と比べてほぼ同じ。 ○光電池の動きと光の強さの関係は、よく理解できている。 ●閉じ込めた空気と水を圧すときの体積の変化を推測する問題に課題が見られる。実験は熱心に行うが、「何のためにこの実験を行っているのか」、「なぜこのような結果になったのか」、「結果からどのようなことが分かったのか」という部分が子どもたちの中で明確に無く、実験と知識との繋がりが薄い。	・実験の結果まで見通した予想ができるよう、予想を立てる段階を丁寧に指導する。 ・予想(結果まで見通す)→結果→考察 のサイクルを明確にすることで、知識の定着を図る。 ・現象を日常生活と結びつけることで、より具体的に理解できるようにするとともに、知識の活用につなげていく。
生命・地球	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○冷やしたコップの周りについて水滴の正体は、空気中の水蒸気が結露したものであることを理解している。 ●水蒸気と湯気の違いについての理解に課題がある。液体が温められると気体になることや、逆に気体が冷やされると液体になることはおさえられている児童が多い。しかし、「目に見えるか見えないか」というポイントをおさえ、水蒸気と湯気の違いについて理解できていた児童は少なかった。	・水が温められ、見えないすがたに変わったものが気体の水(水蒸気)であり、空気中で冷やされて目に見える湯気は液体の水であることが理解できていないので、再度復習したい。 ・学んだことを図や言葉を用いて分かりやすくまとめたり、自分の言葉で友達に説明したりする活動を取り入れ、確実な知識の定着を図る。